

中濃農林事務所の普及活動状況 令和5年10月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー中濃ブロック 視察研修会

10月17日、岐阜県女性農業経営アドバイザー中濃ブロックの視察研修会が山県市で開催され、中濃ブロック会員・関係者合わせて13名が参加した。

研修では、「ハレノヒハレバナナ」と「山県ばすけっと」を視察し、普段あまり見聞きすることのないバナナ栽培や、付加価値を付けた販売方法について、直接経営者等の話を聞いたり、施設を見学したりする充実した研修となった。

農業普及課では、今後も引き続きアドバイザーの自主的な組織活動への支援を行っていく。
(地域支援係)



【バナナ栽培施設の見学】

■新規就農者 就農状況確認

9月26・27日、10月12日に、関市内で過去5年間に新規就農し、国の農業次世代人材投資事業・新規就農者育成総合対策を活用している6名の就農状況確認が関市役所で行われ、農業普及課も同席した。事業を活用した新規就農者は、年2回（1月、7月）就農状況を市町村に報告することとなっており、市町村は報告後に面談等により就農状況を確認し、関係機関からなるサポートチームにより経営改善の支援を行う体制となっている。

いずれの新規就農者も意欲的に農業経営を行っており、概ね青年等就農計画通りの規模の経営となっているが、生産量の伸び悩みや経費の上昇で農業所得が計画に満たない方もあった。

農業普及課からは、日頃の巡回等による作物の生育状況や管理状況も踏まえて、今後の経営方針や農作物管理について助言を行った。今後も、関係機関と連携しながら、新規就農者の早期の営農定着に向けて支援を継続していく。
(地域支援係)



【就農状況確認】

■新規就農者 経営改善支援

岐阜県では、農業経営の改善や法人化に意欲的に取り組む農業者等を対象とした農業経営者法人化等総合サポート事業を立ち上げ、ぎふアグリチャレンジ支援センターが業務を委託して事業を推進している。

農業普及課では、管内の事業重点支援対象者候補を推薦し、現在7名・組織が重点支援対象者に決定されている。

10月13日、美濃市の新規就農者に対する初めての支援会議が開催され、農業者、ぎふアグリチャレンジ支援センター、中小企業診断士、美濃市、農業普及課が出席した。青年等就農計画を元に現在および今後の経営や課題について新規就農者から説明があり、関係機関より質疑応答を行った。農業普及課からは、日頃の巡回等による作物の生育状況や管理状況を踏まえた課題について提起した。

今後も、関係機関と連携しながら、重点支援対象者の経営改善に向けて支援を継続していく。
(地域支援係)

■就農塾（さといもコース） 円空さといも収穫を体験

10月23日、関市内のさといも担い手ほ場にて、JAめぐみのが主催する就農塾（さといもコース）が開催された。

今回は6名の受講生が参加し、収穫時期を迎えたさといもの掘り取りを体験した。JAめぐみのや農業普及課が講師となり、掘り取りの方法や注意事項を説明し、さといも生産者の実際の作業を見学した後、掘り取りとイモの切り離し作業を行った。受講生は、作業や生産者への質問を積極的に行っていた。

農業普及課では、今後も引き続き就農塾の支援を行い、新規就農を目指す受講生がスムーズに就農できるよう支援を行っていく。

（地域支援係）



【さといもの掘り取り】

■農業大学校生 先進農家派遣学習出発式

岐阜県農業大学校では、学生が先進農家の現場での農業体験を通し経営実践能力の向上を目指す「先進農家派遣学習」を重要なカリキュラムとして位置付けている。

今年、中濃農林事務所管内では農業大学校2年生1名が肉用牛生産者の元で学習することとなり、約1ヶ月間の学習が9月25日に始まった。

初日に受け入れ農家畜舎で出発式が開催され、受け入れ農家、学生、農業大学校、中濃農林事務所農業普及課が出席した。式では、農林事務所から受け入れ農家を紹介し、学生は派遣学習の計画について説明、農業普及課長から学生に激励の言葉がかけられた。

10月3日には、農業大学校と現場を巡回し、学習状況を確認した。学生は真面目に作業に取り組んでいる様子で、受け入れ農家も丁寧に学生に指導いただいている様子が窺えた。

農業普及課では、農業大学校の活動を支援し、農村青少年の育成を支援していく。

（地域支援係）



【出発式】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稻（採種） 生産物審査

農業普及課では、管内水稻採種ほ場の生産物審査を実施している。

生産物審査とは、ほ場審査を合格したほ場の籾の発芽勢および発芽率を審査するもので、発芽率90%以上が合格となり、種子として流通することとなる。

生産物審査では、基準に基づき、籾の休眠打破を行い、シャーレに播種して25℃恒温器にて培養し、播種後5日目の発芽勢および播種後14日後の発芽率を調査している。

今年度は5品種271サンプルを審査する計画であり、水稻採種事業補助員を活用しながら、適正に生産物審査を実施し、水稻優良種子の確保につなげていく。

（地域支援係）



【生産物審査】

■小麦 播種前のほ場準備

10月下旬からの小麦の播種に向けて、小麦栽培を行う生産者は排水対策や雑草管理などのほ場準備を始めている。管内の令和6年産小麦は230ha程度の作付けが予定されている。

栽培前の土壌診断の結果、リン酸・カリが不足しているほ場に対し、JAめぐみのと農業普及課が連携して、堆肥散布の試験を実施することとし、10月18日に畜産研究所から提供された豚鶏ふん堆肥のサンプルをほ場に散布した。

播種後は生育調査等を実施し、効果を確認していく予定である。
(地域支援係)



【堆肥散布の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■さつまいも 出荷目揃会

JAめぐみのさつまいも生産組合では、さつまいもの産地化を目指した取り組みを行っている。

9月26日、出荷開始に先立ち、JAめぐみの富加支店にて目揃会が開催された。

事前に試し掘りをした芋を用いて出荷規格の確認を行い、生産者からはA品とB品の分け方について多く質問され、組合員の間で積極的に規格の確認が行われていた。

農業普及課からは、収穫・選別作業時の注意点、来年度に向けた基腐病等の病害虫対策について説明を行った。

農業普及課では、今後も関係機関と連携を図りながら、栽培技術の向上や組合組織活動の支援を行っていく。
(地域支援係)



【出荷規格の確認】

■キウイフルーツ 目揃会

JAめぐみのほらどキウイフルーツ部会は、10月20日にキウイフルーツ選果場で目揃会を開催した。

JA担当者より、出荷に関わる事項として、規格毎の区別や障害果の取り扱いについて説明があった。特に、小玉の果実は需要が少ないため極力持ち込まないように注意があり、部会としても徹底することとなった。

今年は、選果場の稼働を昨年より早めの10月23日に開始することとし、岐阜県農業フェスティバルでも販売されることとなった。

農業普及課では、土壌診断の土壌の採集方法を説明するとともに、生産者毎の栽培状況を把握するため、出荷時に栽培履歴を丁寧に記入して提出することを依頼した。
(地域支援係)



【目揃会】